

2010年10月1日発行

NPO法人RGS協会発行 編集人 堀内孝之 〒146-0094 東京都大田区東矢口 2-18-17 ●TEL 03-3757-3389 ●FAX 03-5482-8827

## ツレちゃん和我

珠木美甫



店のドアが開き入って来た人は、ツレちゃんだった！ こんなに小さなボンボンに、あんなに大きなツレちゃんが！ 今日御来店と分かっただけでも金縛り状態。何故ならツレちゃんこと鳳蘭さんは、私の憧れの人であり、進路を大きく変えるきっかけとなった人なのである。

あれは高校二年の夏、七月十四日、今思えばパリ祭の日（フランス革命記念日）熊本から東京へ修学旅行で



▲筆者(右)とツレちゃん。

来て、宝塚の「ベルサイユのバラ」を私は観てしまった！ そう、観てしまったばかりに世界が激変！ 何という華麗な夢のような世界！ 生の舞台の迫力！ 特に主役の鳳蘭さんはアニメから抜け出たように美しく、歌も踊りも素晴らしく、大スターと呼ぶにふさわしく、輝いていた。

帰りは口もきけず、景色も目に入らず、案内してくれるガイドさんの声も耳に入らず、興奮覚めやらぬその年の秋の文化祭でベルバラをやり、舞台の魅力に目覚め、宝塚ならぬ松竹音楽舞踊学校を受験。受かったので高校を中退して単身上京。松竹歌劇団（SKD）……、モロモロあつて今は、シャンソンを歌い、NHKホールのパリ祭に出演させて頂くようになり、ゲストが鳳蘭さん！ 一緒にするのは三度目だが、やつと今年、顔と名前を覚えてもらえた。「今度ボンボンに行くワア」というわけで、八月十八日、事務所の社長さん、ツレちゃんの舞台仲間でウチにも出てもらっている荒井洗子さん等と共に来て下さったのだ。嬉し

と緊張のあまりすっかり舞い上がって私は、同じくツレちゃんファンで「お母さんと一緒」の歌のお兄さんだった杉田あきひろさんと、あろう事か鳳蘭様の前で、ベルバラのメインターマ「愛あればこそ」をデュエット、熱唱してしまう始末。さぞあきれたであろうツレちゃんは、終始にこやかで、カレライスを平らげ、店主福浦の津軽弁シャンソンに大笑いし、珠木の「帰らんちゃよか」で泣いてくれ、オフなのに記念写真やサインまで……。存在感と人柄の良さと包容力、やっぱりツレちゃんには素敵。

いろいろな芸能人の方がみえるが、今日ばかりはミーハー。宝塚劇場の三階席から熱い眼差しで見つめた、十七歳の少女に戻ってしまった……。そんな私をお客様達は、面白がつてからかいながらも、温かく見守って下さっている。歌い続けて、お店をやっているよかったです。感謝。修学旅行の折に買って帰ったツレちゃんの大きなパネルを、私のあの頃の思い出として大切に、他界するまで部屋の真ん中に飾っていた母の声が聞こえた。

「よかったネエ、峰子ちゃん（本名）」

（筆者はシャンソン歌手）

# 日本生まれのシャンソン 田井中克人



▲田井中 克人氏。

白木さんと巡り逢ったのは小生還暦を越えたある冬のライブハウスであった。その歌声と彼女の魅力に惹かれ音楽の師事を受けることになった。何年かたってから、彼女が自ら作曲を手掛けた「巡り逢い」を聴いた。

人は巡り逢いと哀惜離別を繰り

返し、現在を生きている、そんな人生の深い哀しみの情と激しい愛の情を豊かなメロディーによって表現しているのがこの歌である。

輪廻転生とはあの世に帰った魂が何度も生まれ変わる事を言う、しかし必ずしも人とは限らない、又巡り逢えるとは限らない。

かつての教える立場から教えられる立場になることが新鮮に感じた。それ以上に彼女のパッションの磁場の中に身を置くことが出来るのはこの上も無い喜びである。

生まれ変わった魂が来世で愛した人と再び巡り逢う確率は限りなく少ないが、その思いをこめた、探しつづける詩は彼女の伸びやかな歌唱力によって私の魂をも昇華させる。

(筆者は元京都市立  
洛陽工業高校教諭)

## 巡り逢い

①

恋人たちが愛を語る頃  
哀しみを見捨てて、  
時は流れる

もしも生まれ変わって

また人生があるなら

君に巡り会えるなら

君をまた愛せるなら

※愛して、傷ついて

涙にくれても

君を愛し続けよう

君に巡り会い

涙で寄りそう、

そんな愛もある。

②

恋人たちが星を見つめる頃

哀しみを見捨てて、

時は流れる

もしも魂があるなら

魂が永遠なら

君に巡り会えるなら

君をまた愛せるなら

魂はシリウスの

かなたまで

君を捜し続けよう

ともに暮らせる

星を見つめる

そんな愛もある

※繰り返し

メロディー楽譜は発売中の『日本生まれのシャンソン』に掲載。





暗い日曜日のヒットのせい  
か、なぜか彼女は日本では暗  
いイメージで迎えられている  
が、ピアフ同様に現実派の  
シャンソン歌手である。レ  
パートリーもヴェルレーヌ、  
ウアンサン、スコット、夜も  
昼もなどと多岐に渡っている。  
日本では戦前からのファン  
にとつては神格化された歌手  
で、ピアフ以前の世代を代表  
する歌手である。

本名はマリー・ルイズ・  
ダミアンといい、一八八九年

十二月五日パリで  
生まれている。父  
は警官であるにも  
かかわらず、少女  
時代は不良で施設  
を入ったり出たり、  
ついに十五歳で親  
に縁を切られ、一  
人で芝居のエキス  
トラをして生活し  
ていたらしい。  
彼女を見いだし  
たのは通称ロベル  
ティである。売れない役者だっ  
たが才能を見抜く才があった  
のだろう。正しい発音の仕方  
を学ばせている。  
一九一一年十九歳でデ  
ビュー、美貌と愁いを含んだ  
アルトで聴衆を魅了した。ジャ  
ン・コクトー・ロベールデス  
ノスも賛美している。二十歳  
で当人気第一のハリイ・フ  
ラグソンと共演、活躍した。  
一九七八年一月三〇日、パ  
リ西郊のサンクルーで亡く  
なっている。

(T・H記)

## シャンソン名訳・迷訳

### Mourir d'aimer

*Les parois de ma vie sont lisses  
Je m'y accroche mais je glisse  
Lentement vers ma destinée  
Mourir d'aimer*

*Tandis que le monde me juge  
Je ne vois pour moi qu'un refuge  
Toutes issues m'étant condamnées  
Mourir d'aimer*

*De plein gré s'enfoncer dans la nuit  
Payer l'amour au prix de sa vie  
Pécher contre le corps mais non contre l'esprit*

*Laissant le monde à ses problèmes  
Les gens haineux face à eux-mêmes  
Avec leurs petites idées  
Mourir d'aimer*

*Puisque notre amour ne peut vivre  
Mieux vaut en refermer le livre  
Et plutôt que de le brûler  
Mourir d'aimer*

*Partir en redressant la tête  
Sortir vainqueur d'une défaite  
Renverser toutes les données  
Mourir d'aimer*

1968年五月革命のさなか、実際にあった高校の女教師と教え子の少年との恋愛事件に材をとった映画「愛のために死す」の主題歌で、シャルル・アズナブールが自分で作り、歌っている。私が女教師か少年かわからない詩だ。

### 愛に死すだけ

私の人生にはだかる壁はすべりやすく  
しがみつこうとしても、滑ってしまう  
運命へと向かってゆっくりと  
愛に死すだけ

世間は私を非難するけど  
私にはただ避難するところしか見えない  
すべての出口は塞がれている  
愛に死すだけ

すすんで闇の中にはまりこもう  
わたしの命の代償に愛を支払おう  
罪を犯すのは肉体に対してで、精神に対してではない

世間はいろいろな世俗のことに  
憎悪に満ちた人々には彼ら自身に  
まかせておけばいい、奴らのつまらぬ思いと一緒に  
愛に死すだけ

私たちの愛は生きていくことは出来ないのだから  
本に閉じこめてしまうほうがよい  
燃やしてしまうよりは  
愛に死すだけ

頭を上げ、出発しよう  
敗北者から勝利者として  
すべての事実をひっきりがえして  
愛に死すだけ

●シャンソンの流れる店

## 銀座ボンボン



王子ホールと大きくなった銀座三越の前の道を隔てた、古い小さなビルの地下の扉を押し開くと、そこは「うた」好きの集う店。今では貴重な

ソナバー「ボンボン」だ。もし先客があつたら顔を見てください。ここに居る安心感と幸福感を、これから始まる楽しい時間を期待しての輝く顔。そしてピアノが鳴り「うた」が始まると、モンマントルの丘を歩き、ピギヤール広場を歩き、ボンヌフを渡りモンパルナスのカフェに座っていることになる。マロニエの大きな葉の下を歩き、また変色した葉を踏みしめていたりする「ボンボン」の「うた」の世界は広い。



銀座ボンボン店内。

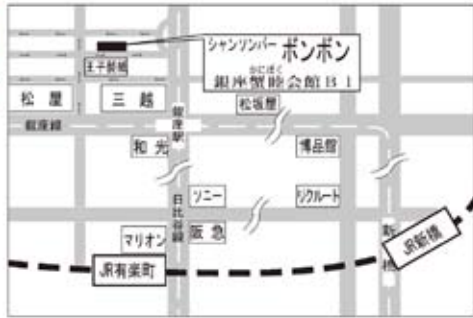
時にはリスボンの空が見え、ナボリの街路に立ち、時には日本の浜辺に寝そべり、アジサイのかたわらに佇んだりし、ア

メリカの朝日の当たる家を見ることもある。

「うた」は多様、歌手は多彩。ここには音楽が充ち、都会の雑音や人の悪意の入り込むスキ間がない。うたう人も聴く人もいい顔のまま帰ることが出来る。それが「ボンボン」。

歌手であるオーナーに乾杯。

(文・ボンボンのファン)



〒104-0061  
東京都中央区銀座 4-8-13  
銀座蟹陸会館ビル B1  
☎ 03-3535-3335  
<http://www.bonbon-ginza.jp>

CHANSON RGSシャンソン研究会発行

**発売中** 日本生まれのシャンソン I

CD・カラオケ付き 定価 2000円

●12月3日 第1回『日本生まれのシャンソンI』を歌う会をデュモンで開催

開演18時

